

働く男のライフスタイル情報紙

Biz Life Style

[ビズスタ東京]

特別版

2018 12

『Biz Life Style』は東京、神奈川、名古屋、関西、京都、仙台、福岡、広島、岡山にて68万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005
企画・制作/株式会社ディリースポーツ案内広告社
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F
© 2018 DAILY ADVERTISING AGENCY CO., LTD



撮影場所:しながわ水族館(品川区勝島3-2-1 TEL.03-3762-3433)



住んでみて、初めて分かった 品川区の魅力とは。

「品川」と聞いて何をイメージするだろうか。駅、車のナンバープレート、高層ビル、オフィス街…。品川区が2017年に制作したPR動画『Promise～シナガワにきっと～』のオープニングでこんな一幕がある。

「知ってた? 品川駅って港区だぜ」
「えっ? 品川じゃないんだ。じゃ、本当の品川ってどこ?」

意外に知られていない本当の品川区。品川区が実施したイメージ調査の結果では、区民からは「昔ながらの」「生活感がある」「下町らしい」というイメージが高い点数を獲得した。少し意外に思われたのではないだろうか。果たして本当なのか。

そこで今回は、実際に品川区にお住まいの女子アーティスティックスイミング選手、小谷実可子さんに単独インタビュー。住んでみての実感や日常の風景についてうかがった。

—品川区にはいつ頃からお住まいですか?

結婚と同時期です。路線は多いし、電車の乗り継ぎもスムーズで、「品川区ってこんなに便利だったの?」と引越してから驚きました(笑)。羽田や成田にも行きやすいですね。

—「知っていたはずなのに」という感じですか?

そうそう(笑)。近隣のいくつかの区にも住んだことがあるのですが、どこに行くにも車を利用していません。自分がこんなに電車で移動するようになると思いませんでした。

—日常の子育ての面はいかがですか?

次女が地元の小学校に入学したのですが、クラスメイトの親御さん方がしっかりしておられることが印象的でした。二世帯でお住まいの方が意外に多くて、おじいちゃんおばあちゃんと一緒に住んでいる子の話を聞くと、ほのぼのとした気分になります。私個人も、家族の絆を大事にするママ友が増えましたし、本当に恵まれた環境だなあとひしひしと感じています。

—区の制度を何か利用されましたか?

東京2020大会の招致活動に参加した際、海外に出かける機会が増えて忙しくなりましたので、区の「すまいるスクール※」を利用させてい



地域の方も協力「すまいるスクール」

ただきました。放課後に子どもたちが小学校の中で活動できるだけでなく、指導員の方や地域のボランティアの方々が勉強や工作を見てくださるんですよ。娘もずいぶん気に入ったようで、私がお家にいる時でも自分から「行ってきてほしい?」と聞いてくるようになりました。

—お話を聞くと、お子さんも楽しんでますね。

そうですね。地元のおまつりや運動会にも積極的に参加しているんですよ。この間のおまつりの日は、友達と一緒に遊ぶだけでなく、ひとりで出かけてきました。本人によれば、「会場に行けば、誰か顔見知りがいるから大丈夫」なのだそう(笑)。違う学年の子たちにも仲よくしていただいているようで、「地元」に友だちが多いのは幸せだなあとうれしくなります。

—東京2020大会招致に向けて積極的に活動されましたが、区でも2つの競技が開催されますね。

「おもてなし」をがんばりたいですよ。シドニーオリンピックの聖火ランナーとして参加した時、地元の子どもの礼儀正しくて熱心な

応援ぶりに感動しましたね。今度は私たちが迎えする立場ですので、濱野区長にもリーダーシップを発揮していただき、一緒に盛り上げていきたいですよ。

—東京2020大会を盛り上げるためにはどうすればよいのでしょうか。

アーティスティックスイミングもそうですが、初めて見る競技は「どこで拍手をしていいのかわからない」という方も多いですよ。そんな時は、ぜひテストイベントや体験イベントなどに参加いただきたいと思います。応援に慣れると、スポーツの感動はひとしおですよ。

—最後に、今後の目標をお教えてください。

東京2020大会の成功はもちろんですが、それを契機に日本のスポーツ界をどう成長させていくのかについて考えたいと思っています。みんなの力で「レガシー」にすべきイベントだと思いたすので、私にできることは惜しまずお手伝いして、素晴らしい大会にしていきたいですね。競技会場がある品川区からも盛り上げてほしいです。



小谷 実可子さん

1966年08月30日生まれ。日本大学卒。
ソウル五輪では初の女性旗手を務め、ソロ・デュエットで銅メダルを獲得。
東京2020招致アンバサダーを務めるなど国際的に活動する。

※「すまいるスクール」
学校施設を活用した全児童放課後対策事業。地域の方を講師として招き、スポーツや伝統文化の体験など、子どもたちの成長を育む。

「住みたいまち」「住み続けたいまち」の実現に向けて、さまざまな施策を実行中の品川区。20年近く居住者の人口が増え続けるなど好調だが、区では何を重視し、今後どんなまちをつくりあげようと考えているのか。現状とビジョンについて、濱野健区長にうかがった。

撮影場所:info & cafe SQUARE(品川区荏原4-5-28 TEL:03-3783-7200)
2018年11月にオープンした観光案内も行うコミュニティ型カフェ。

はまの たけし
品川区 濱野 健 区長

「輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ」を目指して。



しながわネウボラネットワーク

—品川区の人口は平成10年以降、増加傾向にあるそうですね。その理由はどこにあるとお考えですか？

主な要因としては、子育て世帯や若年の単身世帯の転入が考えられます。交通の利便性、活気のある商店街など品川区の魅力はたくさんありますが、子育て教育施策をはじめとした住み続けたいまちづくりも着実に進めてきました。品川区が地道に取り組んできたことが皆さんから評価をいただいているということであり、大変うれしく思います。

—定住促進に向けて、誰にもやさしく住みやすいまちづくりを常に議論されているかと思えます。その具体的な取り組みについてお教えてください。

子どもを安心して産み育てるためには、健康、生活、育児などの多様な相談や支援が欠かせません。品川区では、「しながわネウボラネットワーク」という取り組みを進めています。「ネウボラ」とは、フィリピン語でアドバイス(ネウボ)の場(ラ)という意味で、子どもを安心して産み育てるためのサポートを行う仕組みです。妊娠届出後から就学前まで、

各関係機関が連携しながら、相談やサポートを行っています。今年6月に区と包括協定を締結した東京医療保健大学(東五反田4-1-17)さんにもご協力いただいている取り組みです。

平成18年度には、全国に先駆けて「小中一貫教育」を導入し、全ての区立学校で9年間の「貫いた教育」を実施しています。平成27年には、国が追随する形で学校教育法の一部が改正され、施設一体型小中貫校を「義務教育学校」として新たに設置しました。現在、区内には6校の義務教育学校があります。また、義務教育学校に限らず、区立小中学校も含め、1年生からの「英語科」、特別教科である「市民科」など、品川区独自のカリキュラムを取り入れた、9年間の「貫いた教育」を実施しています。

—高齢者の方々向けの支援にも積極的です。

はい。品川区では、誰もが安心して住み続けることができる地域社会を実現するために、町会・自治会、民生委員など地域で活動する皆さんや、民間事業者の協力を得て、見守り活動にも力を入れています。ひとり暮らし高齢者の方などに対し



ALT(外国人英語講師)による1年生の「英語科」



戸越銀座商店街のにぎわい

では、日常生活の些細なことでもご相談していただけるような身近な福祉の相談窓口として「支え愛・ほっとステーション」を計13カ所の地域センターに設置しています。2人のコーディネーターが常駐し、高齢者の方からのご相談に応じています。

—品川区は歴史が息づくまちですが、歴史や偉人という視点で見た魅力は何ですか。

今年、明治維新150年という節目の年でしたが、幕末や明治に活躍された方々にゆかりの場所が多いのも品川区の見どころです。

現在の京急立会川駅の近くに土佐藩下屋敷がありました。ペリー来航時に坂本龍馬が江戸警固のため臨時招集され、土佐藩下屋敷にて守備についたとされています。駅前には、20歳頃の坂本龍馬像が建てられ、近くの新浜川公園(東大井2-26-18)には、当時の砲台が復元されています。そのほか、板垣退助、山内容堂といった偉人たちのお墓が区内にたくさんあります。幕末や明治の日本に思いをはせながら、お墓をめぐるのもおすすめです。

—区長から見た、品川区の魅力を教えてください。

交通が非常に便利である点ですね。羽田空港や2027年にリニア中央新幹線が開通する予定の品川駅にもアクセスしやすい。また、商店街も元気でとても活気があります。たくさんの方にお買い物に来ていただきたいと思います。

—今後のビジョンをお教えてください。

区内にも競技会場がある東京2020大会の開催を好機ととらえ、まちのにぎわいを充実させるとともに、夢の舞台の感動をわかちあえる品川区をめざします。この世界的な祭典を区をあげてお迎えするとともに、区民の皆さんと体となって盛り上げていきます。

また、これを契機に、区の魅力を国内外に情報発信するシンポジウム・フォーラム事業をさらに強力に推進していきたいと考えております。品川区は、地域の皆さんのさまざまな活動が発見の場です。区民の皆さんと共に「住むなら品川区」と言われるようなまちを目指し、区全体の発展へとつなげていきます。ぜひご注目ください。



立会川の坂本龍馬像(区立北浜川児童遊園内)



品川区3競技応援キャラクター

品川区では、東京2020オリンピック・パラリンピックの競技のうち、区内で開催されるホッケーとビーチバレーボールのほか、応援競技であるブラインドサッカーの3競技を応援している。ここでは、各競技の応援キャラクターをご紹介します！



ホッケー
応援キャラクター
シナカモン



ホッケー

10人のフィールドプレーヤーと1人のゴールキーパーで行う競技。シュート時のボールスピードは新幹線並みで、スピード感あふれる試合展開が魅力。

会場／大井ふ頭中央海浜公園(品川区八潮4-1)



ビーチバレーボール
応援キャラクター
ビーチユウ



ビーチバレーボール

砂の上にネットを張り、2人対2人で行うバレーボール。屋外で行われるため、日差しや風の影響を読みつつ、広いコートを守り攻撃を仕掛ける。戦術や駆け引きが見どころ。

会場／潮風公園(品川区東八潮1)



ブラインドサッカー
応援キャラクター
やたたま



ブラインドサッカー

アイマスクをつけて行う5人制のサッカー。転がると音が出る特殊なボールを使用し、見えない状態でボールやゴールの位置を把握し、シュートを狙う。

会場／江東区青海1



ふるさと納税で 品川区水辺千本桜づくりに参加

現在、品川区では、区内の水辺空間の魅力アップやにぎわい創出の資産である桜を2020年までに1,000本に増やす「品川区水辺千本桜計画」に取り組んでおり、区民との協働により整備を進めるため、ふるさと納税で寄附金を募集中。



寄附額 50,000円以上コース

寄附者の氏名を記した記念プレートを目黒川沿いに設置。メッセージも記載。



寄附額 30,000円以上コース

可憐なさくらの花をいつでも愛でることができるアクリルキューブを贈呈。



しながわ観光大使シナモロールが ふるさと納税のお礼の品に登場!!



しながわ観光大使「シナモロール」のぬいぐるみが、ふるさと納税(3万円以上)のお礼の品に加わった。しながわ水族館のイルカや目黒川の桜をあらわしたオリジナルデザインで、トートバッグ付き。

cinnamoroll
©2001, 2018 SANRIO CO., LTD. APPROVAL No.G593435

品川区のふるさと納税の詳細はこちら

品川区 ふるさと納税

検索

ふるさとチョイス自治体ページ

www.furusato-tax.jp/city/info/13109



品川音頭

CD・踊り方DVD 区役所で有料頒布中(各500円)

昭和53年の制定以来、区民の皆さんに愛されてきた品川音頭を、区制70周年記念事業の取り組みとしてリニューアル。歌詩に八潮の地名が加わったほか、ダンスリミックスバージョン等も制作しました。

歌唱：演歌歌手の岩本公水さん
踊り：品川区民踊連盟の皆さん



品川区PR動画

『Promise～シナガワにぎっと～』

300人を超える区民と区にゆかりのある有名人が、オリジナルのドラマ・歌・ダンスで区の魅力をPRするエンターテインメントムービー。動画は、区公式YouTubeチャンネルで公開中です。

しながわネットTV

検索





品川区のシティプロモーション

品川区の魅力を表現した名フレーズが続々と誕生!

交通の利便性や住環境の充実はもちろん、子育て世代や高齢者のサポート体制から歴史や文化との関連の深さまで、知れば知るほど奥が深い品川区。表紙の小谷実可子さん、濱野健区長のインタビューでもその魅力が伝わってくるが、逆に言えば「これまで知らなかった」ということもある。

そこで、区では「魅力いっぱいなのに伝えきれない品川区を強烈にアピールするアイデア」というテーマで、「わ!しながわ」の後に続くフレーズを公募。募集の告知文では「魅力をイマイチ伝えきれない品川区をエッジの効いたインパクトのある表現でアピールしてください」面白ければ少々自虐的でも破天荒でも構いません」と投げかけたところ、何と合計7000以上の作品が集まった。

応募作品の中から、区民アンケートを経てさらに絞り込まれたPRフレーズは、実際に区のシティプロモーションに活用されている。言葉に合わせてプロのイラストレーターがイラストを描き起こし、電車やバスの交通広告で使用された。品川駅の自由通路やJR京浜東北線の中吊り広告などでも掲出されたので、ご覧になった方もいるだろう。

中吊り広告は終了しているが、都営バスやSNS、WEB広告などでは、

来年の3月末まで使用される予定だ。このページでは8点を紹介しておくが、このほかにもインパクトたっぷりに仕上がっているの、ぜひチェックを。

表紙で紹介したオリジナル動画をはじめ、区では今後もシティプロモーションを強力に展開していく方針だ。今後の展開にも期待したい。

来年の3月末まで使用される予定だ。このページでは8点を紹介しておくが、このほかにもインパクトたっぷりに仕上がっているの、ぜひチェックを。

表紙で紹介したオリジナル動画をはじめ、区では今後もシティプロモーションを強力に展開していく方針だ。今後の展開にも期待したい。



来年の3月末まで使用される予定だ。このページでは8点を紹介しておくが、このほかにもインパクトたっぷりに仕上がっているの、ぜひチェックを。

表紙で紹介したオリジナル動画をはじめ、区では今後もシティプロモーションを強力に展開していく方針だ。今後の展開にも期待したい。



東京の玄関、というより、リビング。



あんまり言うと上司まで引っ越してきそうだ。



意外と遊べる。意外と住める。



貝塚が残ってるくらい、昔から住みやすい場所でした。



このままがいいので、あんまり宣伝しないでください。(品川区民)



あなたが想像している品川は、品川区ではないと思う



子どもが住みやすい街は、みんなに住みやすい街だ。



東京に疲れました。品川区に帰ります。



楽しいフレーズにはキャッチーなイラストを

集まった作品は、どれも人情味やあたたかさ、面白さのあるコピーが多かったので、イラストもできるだけキャッチーに見えるように心がけました。イラストの役割は、目に止まるようにすることだと思いますので、「絵で惹きつけて文字を見せる」「文字で惹きつけて絵を見せる」というキャッチボールのような相乗効果が出れば良いな...と。イラストレーターとしての私個人としてもキャッチーでハッピーなタッチが得意なので、憎越ながら、今回の企画には合っているのかなと思いました。

私も10年間ほど、品川区に住んでいます。企画に参加したから言うのではなく、本当に住みやすいまちなんです。どこへ行くにもアクセスがよくて、適度に都会でいて、庶民的なんです。意外に物価が安いすね(笑)。区のサービスも教育面などが充実しています。今後も区民の暮らしに役立つことを積極的に展開してほしいですね。ほかのどの区にも負けなくらいに。

今回のイラストは、皆さんの目にふれる機会が多いようで、周りからの反応も大きいです。これからも、幅広いジャンルでお役に立ちたいと思っています。

イラストレーター 本山 浩子 さん